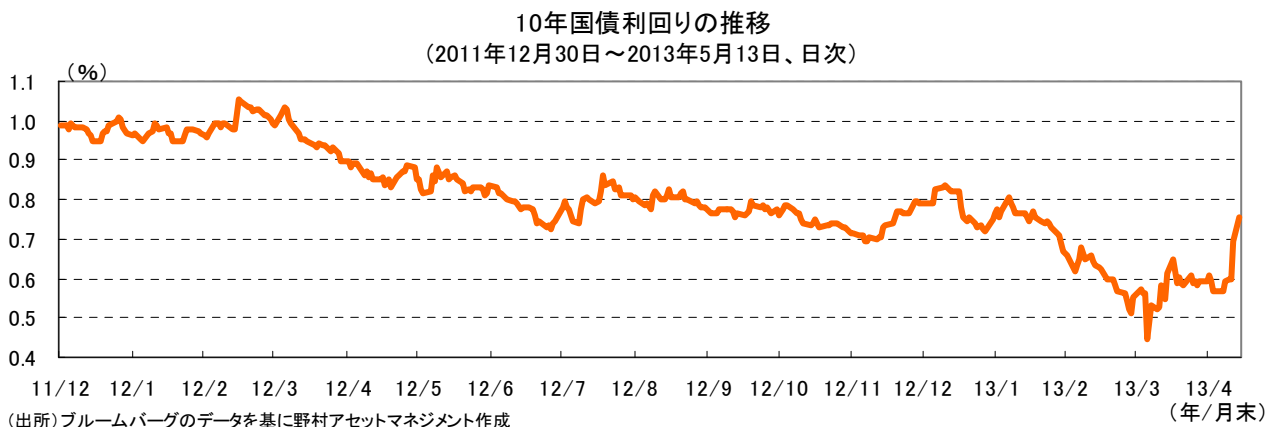
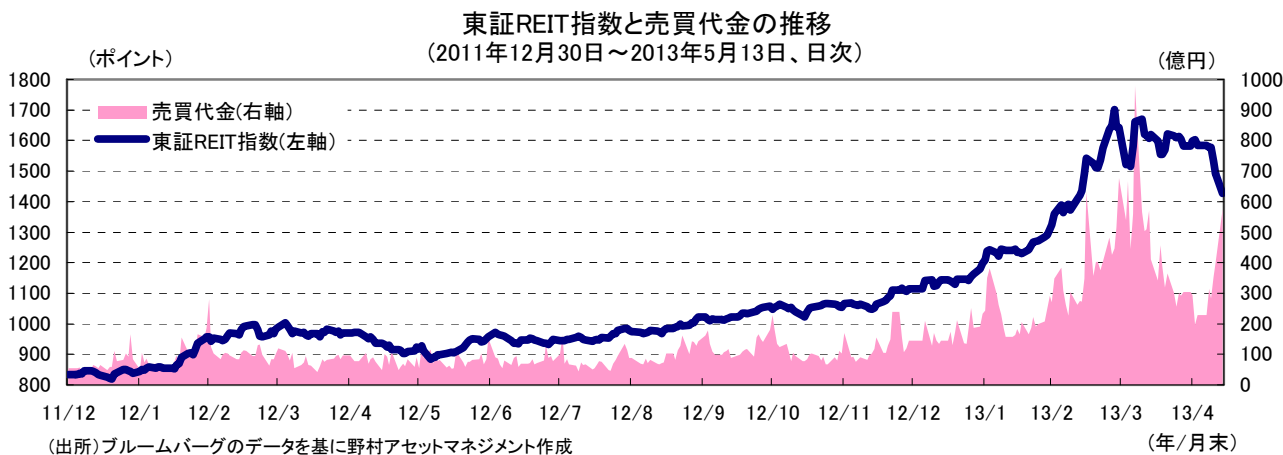


### 直近の東証REIT指数の下落について

先週末、およそ2ヵ月ぶりに1,500ポイントを割り込んだ東証REIT指数は週明けの13日も続落し、終値は1,426.63ポイントとなりました。今年3月27日の高値(終値ベース、1,700.91ポイント)からの下落率は約16%となりました。足元のREIT市場の下落要因としては、大型REITの新規上場発表を受けた需給悪化懸念や長期金利(国債利回り)の上昇などが挙げられますが、昨年来の大幅な上昇を背景に、一部機関投資家が利益確定の売りを出していることも影響している模様です。

都心部のオフィス賃料に底入れ期待が高まった昨年半ば以降、REIT市場はほぼ一本調子で上昇し、東証REIT指数は、今年3月末には2008年1月以来となる1,700ポイントをつけ、昨年6月上旬の900ポイントを割り込む水準からの上昇率は約90%に達していました。指数の上昇にともないREIT市場の売買代金も大きく増加し、昨年は概ね100億円前後で推移していた1日当たり売買代金も今年4月上旬には一時1,000億円近くまで膨らむなか、新年度入りを受けて、機関投資家など一部投資家の利益確定売りが続いている模様です。

ただし、今後のREIT市場の見方については、不動産市況の回復予想や日銀の積極的な金融緩和姿勢、5月13日現在で3%台後半と、株式や債券に比べて依然高い配当利回りなどを背景に、先高観を指摘する声も市場にはあります。



以上

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。